

ゼロアップセンター

アンビアン便り 5月 2010年

徒然なるままに……

あっという間に1年の1/3が過ぎましたね。日差しはすっかり春ですね。温度差の大きい4月でしたが、体調は如何でしょうか。ゴールデンウィークで心調は生き生きされてますか!?

アンビアンには『観音様』が居る? (“居られる”ではない)

春の陽気に誘われて、今さら言うのも何ですが、アンビアンには『観音様』が居ます(・0^)。 「心生き生き健やかに生きる」そんな人達をサポートしています。…ウッソー!…ホント(^0^)
でも……最後までワクワク読んでね。

4月号で、言葉の持つ(背後の、奥の)意味をも読む、通訳の難しさと大切さを肌で(細胞感覚で?)感じました。特に、言葉(言霊)・意識・情報・エネルギーなど、目にみえないことは……と書きました。同じ日本語であっても、言葉の定義や解釈が個々・人によってかなり違ってくると思います。普通の会話をしていても通訳が必要と思われることが多々ありますよね(笑)。

書店に並ぶ著名な翻訳者は多々いらっしゃいますが、私のお気に入りの翻訳者の1人、Nanaさんが“Nana&Joeパワフル・アファーマーション”の中で翻訳時の機微を書かれています。彼女は心理療法士でもあり、さすがだな、おもしろいなと思ったので、下記にご紹介します。

~

「人間はボディー・マインド・スピリット で出来ている」 などと使うときには、 「身体・心・魂」(Body Mind Sprit) という訳し方になると思います。

日本語の心、精神、魂、霊、靈魂などは、宗教のバックグラウンドやその時々によって意味がはっきりしていないため、英語との対訳となると、さらに臨機応変さが必要です。

「スポーツマン精神」というときには、精神が「マインド」に近い気もするし、 「魂」というときには、「意地」みたいなニュアンスで使われる場合もあります。 「武士道」「騎士道」などの「道」は、魂(soul)とか「存在」(being)と言ったところでしょうか。

でも「紳士」(gentleman)というときは、日本人は、「心」(Heart)のレベルでのことと思いがちですが、現代の欧米では、しつけやルール、習慣に近いことなので、「勘違い」が起こったりします。(親切にされると、「あの人私のこと好きなんだわ!」なんて...)

日本人に「マインドってどこにある?」と聞くと、たいてい胸を指すので、感覚的には「心」に近い。英語圏の人は、「頭」を指しますから、やはり「脳」や「知能」「理性」なのでしょう。

「私?」というときでも多くの日本人は、顔(顔の中心・鼻)を指差しますが、欧米では、胸に手を当てる人が多い。

「自己」のとらえ方、「個」の意識、アイデンティティーの感じ方に差があります。

顔の場合は、ペルソナ(仮面)、外的人格、集団の中での位置づけが基準になっていて、

胸の場合は、内面での動き、エゴ、「私という存在」に注意が向いているのですね。

日本人が欧米人を「自己中心的」と感じやすいのもこの感覚の違いがベースにあるようです。どちらが「良い・悪い」という問題ではありませんが、

あなたが「自分」を意識するとき、どこに重点を置いているかを 知ってみるのも面白いかもしれません。

<あなたはご主人(奥様)を呼ぶとき何と呼んでいますか? チョット意識してみてください。>

他にも「エゴ」「潜在意識」「無意識」など、使う人によって少し意味が異なる言葉があるのでとくに翻訳本を読んでいて「?」となったときのヒントになれば嬉しいです。

ちょっと頭(mind)の体操でした!

以上

Nanaさんは、「神との対話」著者で、世界的に有名な、私も大好きなニールさんと懇意な方です。ニールさんは十数年前に神様と対話(自動書記・チャネリング)し、それが本になりました。

ところで、ゼロアップリーディングの測定は純粹意識(宇宙意識・ゼロフィールド)からの情報を音で受信、またチャートで観て読み解きます。音を観る人。エ〜ッ! これって『観音様』!?

(^0^) ですよ!!

ゼロアップセンター アンビアン

豊中市向丘2 - 10 - 7 - 202

TEL 06 - 6854 - 8810

E-MAIL zero@anbian.jp

ホームページ <http://anbian.jp>